



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月10日

上場会社名 杉田エース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7635 URL https://www.sugita-ace.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉田 裕介
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 佐藤 正 TEL 03-3633-5150
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

百万円未満切捨て

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	40,577	△1.7	48	—	142	—	72	266.4
2020年3月期第3四半期	41,299	1.6	△90	—	△1	—	19	354.7

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 110百万円 (140.8%) 2020年3月期第3四半期 45百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	13.55	—
2020年3月期第3四半期	3.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	29,197	10,070	34.5	1,877.05
2020年3月期	32,285	10,121	31.3	1,886.51

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 10,070百万円 2020年3月期 10,121百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2021年3月期	—	0.00	—		
2021年3月期（予想）				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,500	△7.2	370	△32.5	475	△28.1	300	△27.8	55.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	5,374,000株	2020年3月期	5,374,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	8,853株	2020年3月期	8,853株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	5,365,147株	2020年3月期3Q	5,365,155株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想の見直し等の記述は、作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会経済活動の停滞が続く中で、企業の業績悪化は避けられず、景況感は悪化傾向が続きました。このコロナ禍の収束の目途は未だ立たず、依然として厳しい状況で推移しました。

住宅建設業界におきましては、持ち家の着工は横ばい、貸家の着工は緩やかな減少、分譲住宅の着工は弱含み、首都圏のマンション販売戸数は持ち直し気味という状況で、全体として弱含み傾向で推移しました。

このような状況の中、当社グループは、徹底した除菌対策を講じ、更にテレワークの導入やWEBによる商談や会議の実施など、感染症への対策を図りながら企業活動に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高40,577百万円（前年同四半期比1.7%減）、営業利益48百万円（前年同四半期は90百万円の営業損失）、経常利益142百万円（前年同四半期は1百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益72百万円（前年同四半期比266.4%増）となりました。

セグメント別の商品区分別売上高は次のとおりであります。

なお第1四半期連結会計期間より報告セグメント区分の変更を行ったため、前年同四半期比較については変更後の区分により再集計した数値を基に算出しております。

商品区分	ルート事業	直需事業	計	構成比
住宅用資材（百万円）	17,201	—	17,201	42.4
ビル用資材（百万円）	17,105	—	17,105	42.2
DIY商品（百万円）	369	3,257	3,627	8.9
OEM関連資材（百万円）	—	1,021	1,021	2.5
その他（百万円）	1,622	—	1,622	4.0
合計（百万円）	36,298	4,279	40,577	100.0%

①ルート事業（ルート事業は、住宅用資材及びビル用資材を、二次卸・金物店・建材店等へ販売しております。また、同資材を建材店・販売工事店へ、独自のノウハウによる設計・加工・施工等の付加価値を加味した販売を行っております。）

ルート事業については、資材の供給が多少改善されたことにより、大幅に遅延していた工事案件に対して資材の供給が可能になり、各種改修工事案件が徐々に動き始めた事により、大幅な落ち込みを食い止める事ができました。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、引き続き、職人不足等により工期がずれこむ案件や、工事そのものが中止になる案件が見受けられ、工事が前年より減少しているため売上高は減少しました。

一方、当社グループは引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策商品として、宅配における配達者と荷受者の接触を避けるための宅配ボックス、衛生用品（除菌スプレー、サーモマネージャー等）、飛沫感染防止パネル、シートフィルム等の拡販に注力しました。

この結果、ルート事業全体の売上高は、36,298百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

②直需事業（直需事業は、ホームセンター、通販会社、百貨店、一般小売店等向けのDIY商品、およびOEM関連資材、その他商品を販売しております。）

直需事業については、新型コロナウイルス感染予防対策商品や、ステイホーム等により、内装・DIY資材がホームセンター、通販会社で依然好調に推移しました。また全国的な好天により「PATIO PETITE」を始めとしたアウトドア商材も拡販することができました。イエナカ需要の拡大により「イザメシ」はカタログ通販等での動きは活発でした。防災商品は落ち着きを見せ、建築現場資材は低調に推移しました。

この結果、直需事業全体の売上高は、4,279百万円（同6.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は21,962百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,935百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が3,161百万円、現金及び預金が49百万円それぞれ減少し、たな卸資産が620百万円増加したことによるものであります。固定資産は7,235百万円となり、前連結会計年度末に比べ153百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が25百万円増加し、無形固定資産が36百万円、投資その他の資産が142百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は29,197百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,088百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は16,531百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,024百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が920百万円、電子記録債務が1,830百万円、未払法人税等が165百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は2,595百万円となり、前連結会計年度末に比べ12百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が31百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は19,126百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,037百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は10,070百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益72百万円、その他有価証券評価差額金31百万円増加、剰余金の配当160百万円の利益剰余金減少によるものであります。

この結果、自己資本比率は34.5% (前連結会計年度末は31.3%) となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、2020年8月7日の「2021年3月期 第1四半期決算短信」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,883	2,834
受取手形及び売掛金	15,099	11,937
電子記録債権	2,013	1,813
たな卸資産	3,816	4,437
未収入金	1,054	881
その他	38	62
貸倒引当金	△7	△5
流動資産合計	24,897	21,962
固定資産		
有形固定資産	5,226	5,251
無形固定資産	356	319
投資その他の資産	1,805	1,663
固定資産合計	7,388	7,235
資産合計	32,285	29,197
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,535	5,615
電子記録債務	10,932	9,101
1年内返済予定の長期借入金	433	415
未払法人税等	199	34
賞与引当金	357	177
その他	1,097	1,187
流動負債合計	19,556	16,531
固定負債		
長期借入金	1,513	1,482
退職給付に係る負債	440	439
役員退職慰労引当金	519	531
その他	134	141
固定負債合計	2,607	2,595
負債合計	22,164	19,126
純資産の部		
株主資本		
資本金	697	697
資本剰余金	409	409
利益剰余金	9,000	8,912
自己株式	△4	△4
株主資本合計	10,103	10,015
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36	68
退職給付に係る調整累計額	△18	△12
その他の包括利益累計額合計	18	55
純資産合計	10,121	10,070
負債純資産合計	32,285	29,197

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	41,299	40,577
売上原価	35,363	34,707
売上総利益	5,936	5,869
販売費及び一般管理費	6,026	5,821
営業利益又は営業損失(△)	△90	48
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	20	19
仕入割引	83	82
受取家賃	31	32
その他	15	16
営業外収益合計	151	151
営業外費用		
支払利息	6	5
手形売却損	10	7
売上割引	42	42
その他	3	1
営業外費用合計	62	57
経常利益又は経常損失(△)	△1	142
特別利益		
投資有価証券売却益	—	51
特別利益合計	—	51
特別損失		
固定資産除売却損	20	1
特別損失合計	20	1
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△22	192
法人税、住民税及び事業税	38	46
法人税等調整額	△80	73
法人税等合計	△42	120
四半期純利益	19	72
親会社株主に帰属する四半期純利益	19	72

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	19	72
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	31
退職給付に係る調整額	6	5
その他の包括利益合計	25	37
四半期包括利益	45	110
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45	110
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染拡大により、売上高の減少等の影響が生じておりますが、感染拡大がこれ以上深刻化せず、徐々に収束に向かうものと仮定し、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

今後、新型コロナウイルス感染拡大が深刻化する場合は、当連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があります。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計
	ルート事業	直需事業	
売上高			
外部顧客への売上高	37,273	4,025	41,299
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	37,273	4,025	41,299
セグメント利益	1,095	15	1,110

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,110
全社費用 (注)	△1,200
四半期連結損益計算書の営業損失 (△)	△90

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計
	ルート事業	直需事業	
売上高			
外部顧客への売上高	36,298	4,279	40,577
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	36,298	4,279	40,577
セグメント利益	1,061	16	1,078

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,078
全社費用 (注)	△1,030
四半期連結損益計算書の営業利益	48

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更に関する事項

当社グループの報告セグメントの事業区分は、「ルート事業」「エンジニアリング事業」「直需事業」の3事業としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、従来のエンジニアリング事業をルート事業に統合することにより、業務の効率化と営業所の機動性向上を図るため、「ルート事業」「直需事業」の2事業に変更しました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の組織により再集計した数値を基に作成したものを開示しております。